

## ●宮城（貞山堀と津波）

### 【経緯】

貞山堀（貞山運河とも呼ぶ）は、阿武隈川河口から塩竈湾まで、海岸線沿いに延びる全長31.5kmの日本一長い運河です。

阿武隈川から松島湾に至る木曳堀、新堀、御舟入堀を総称して貞山堀と呼んでいます。

貞山堀は人工的に掘られた運河であり、古くから物資輸送などの目的で使われてきました。最も古い木曳堀は約400年前に建設され、その後御舟入堀、

明治に入り新堀、北上運河、東名運河と建設され、明治17年（1884年）までに完成したという、歴史的な施設とも言えます。この間、完成までに3世紀という長い年月を要し、伊達政宗が運河の大構想を持っていたことを偲び、政宗の諡（おくりな）である「貞山」から貞山堀と付けられたと言われています。

### 【津波による被害状況】

貞山堀付近の津波の被害状況を以下に示します。



貞山堀の位置



震災前（新堀付近、H22.9.29撮影）



震災後（新堀付近、H23.9.10撮影）

仙台河川国道事務所 HP <http://www.thr.mlit.go.jp/Sendai/index.html>

（「貞山運河の歴史を知っていますか？」 より）

（「明日へつなぐ」仙台湾南部海岸堤防復旧プロジェクト 海岸航空写真「震災前後の比較写真」 より）